

～ 小学校のみで学校統合する場合 ～

統合校 鳴子小学校, 川渡小学校, 鬼首小学校

利用校舎 鳴子小学校

校舎①3302 m² (H3 築) 校舎⑥501 m² (H3 築) 体育館 1462 m² (H3 築)

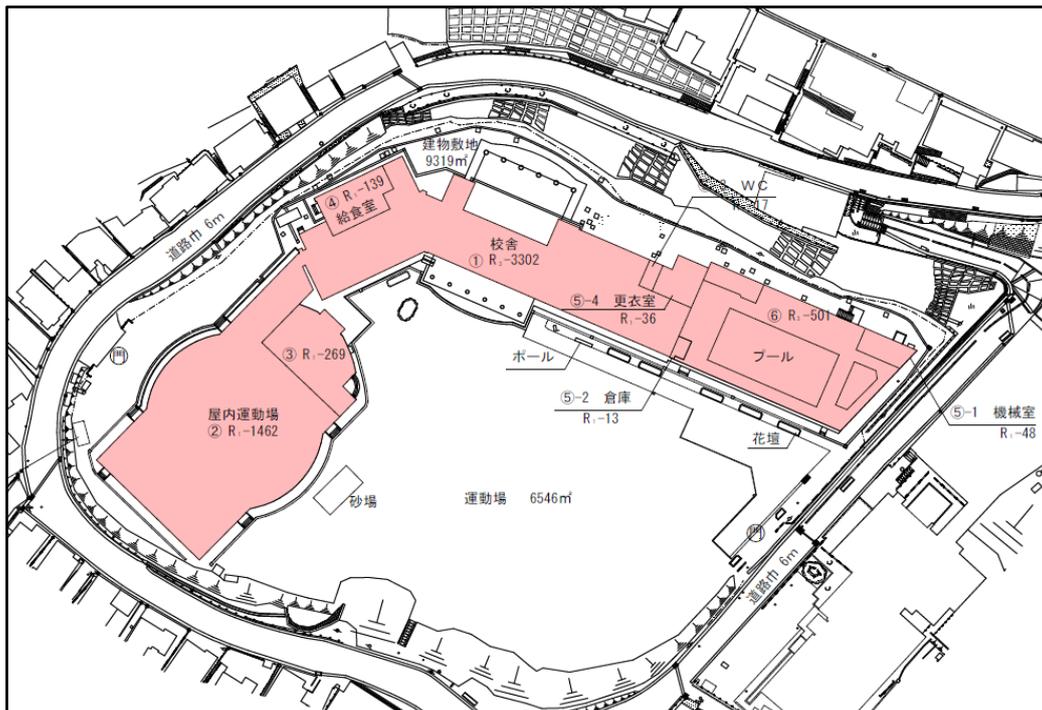
※校舎①⑥, 体育館ともに築 31 年であり大規模改造工事の対象

・児童数・クラス数 (予測)

区分 学年 年度	小学生							
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	合計
令和 7 年度	7	7	23	14	26	20	—	97
クラス数	1	1	1	1	1	1	3	9
令和 8 年度	13	7	7	23	14	26	—	90
クラス数	1	1	1	1	1	1	3	9
令和 9 年度	6	13	7	7	23	14	—	70
クラス数	1	1	1	1	1	1	3	9

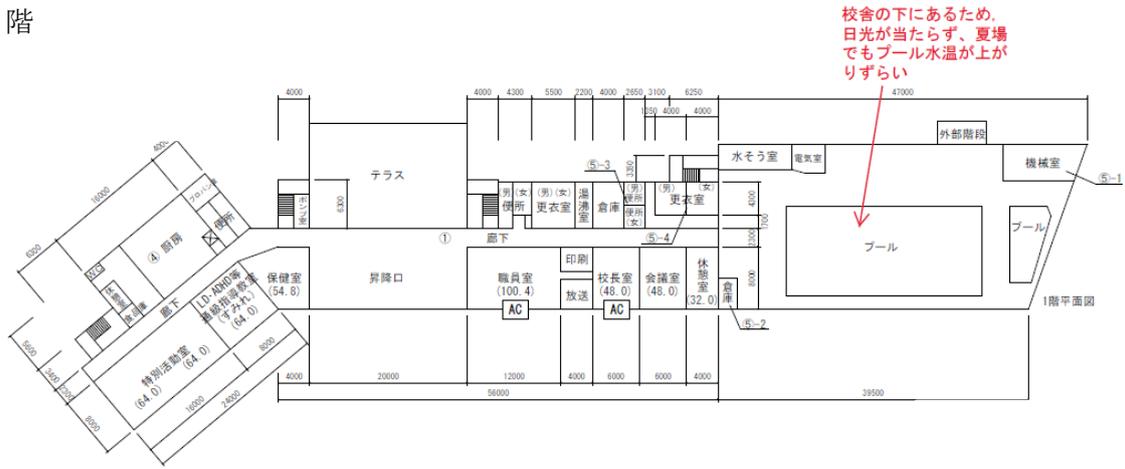
※令和 8 年度から 2・3 年生は複式学級対象の児童数であるが, 学校統合の特例加配を想定し, 複式学級を適用しない。(特例は統合後 5 年間まで)

・施設配置図・施設面積等

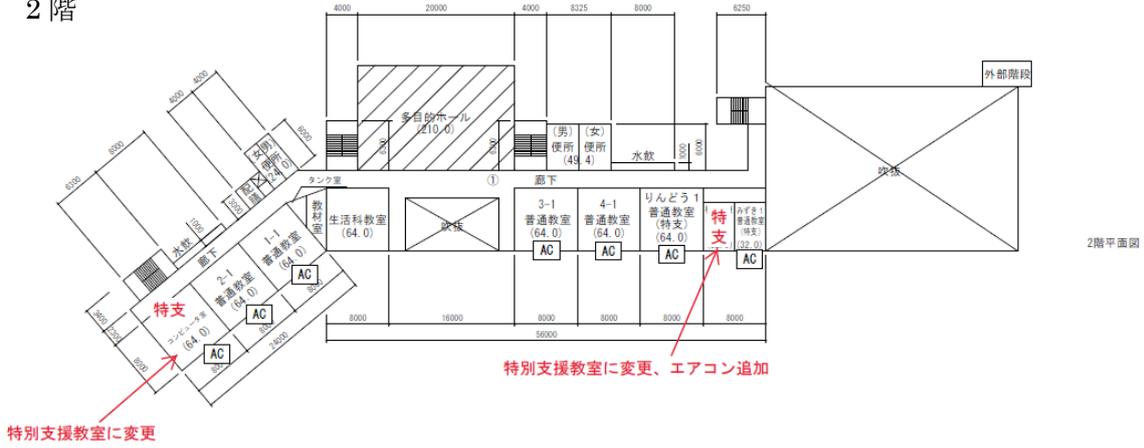


・教室配置図

1階



2階



3階



《メリット・デメリット》

メリット

- ・全学年 1 クラスずつであり，エアコン追加工事・コンピュータ室改修工事を実施することで利用可能。
- ・児童推移により令和 8 年度から複式学級対象となる学年が出てくる。ただし，学校統合の特例により，統合後 5 年間は教職員の加配が認められるため，複式学級を回避することができる。（小学校のみ統合，小・中統合 共通）
- ・校舎内で学童保育を実施している。
（学童保育で預かる児童の範囲，児童数増による使用教室の検討については，担当課と協議・調整が必要）

デメリット

- ・児童数の減少は回避することはできず，現在予測可能な令和 9 年度で全校生徒 70 人となり，移住・定住，U ターン等がない限り，その後もさらに減少することが予測される。
- ・プールが校舎の 1 階部分にあり，日光が当たりづらいため水温が上がりづらい。
- ・学校への登り口が狭く，傾斜もあるため，スクールバスの安全性が懸念される。
（対応策：鳴子温泉駅までの送迎とし，駅からは徒歩で通学）
- ・校舎，体育館ともに平成 3 年築であるが，老朽化及び硫黄被害等により雨漏りが発生している。鉄筋コンクリート造の建物は雨漏り原因の特定が難しく，これまで複数回修繕工事を実施しているが，改善が見られないケースも多いため，大規模改造工事が必要となる。学校統合と同時に工事するのではなく，市全体の学校施設長寿命化計画に基づき，順番を待っての施工となる。
※市内同規模校の大規模改造工事を見ると，校舎で約 4～5 億円，体育館で約 3 億円掛かるため，大規模改造工事実施後，数年で中学校と統合するということは難しくなる。